

酒蔵・町家・食・歴史をテーマにまちづくり (宍粟市)

活用資源	まちなみ、町家、特産品
取組主体	よいまちプロジェクト

概要

- ・宍粟市山崎地区は城下町として発展し、自然豊かな最上山の麓に町家、酒蔵、寺社などが残り、歴史的なまちなみ景観を形成している地域です。
- ・人口減少や空き家の増加が進むなか、観光客・交流人口の増加や産業の活性化を目指し、地域住民でつくる「よいまちプロジェクト（山崎中心市街地活性化委員会）」が、古くから残る酒蔵・町家・食・歴史などの資源を活かし、以下の活動に取り組んでいます。

①町家の再生

空き家となった町家を改修し、日本酒バー、炭火焼き鳥&そば、レンタルキッチン&訪問看護ステーションなど、テーマに沿って、地域の人も外から来る人も楽しめる施設に再生しています。

②「よいまちハイカラフェスタ」の開催

歴史的なまちなみを舞台としてさまざまな資源の魅力を発信し、観光客・交流人口の増加につなげるため、古民家で手作り雑貨や地元の特産品、スイーツなどを販売するほか、日本酒の試飲・販売会などを実施しています。

③都市部でのPR

神戸元町商店街において「山崎酒蔵通りから地元素材をお届けマルシェ」を開催し、日本酒「三笑」、アマゴの塩焼き、宍粟牛食べ歩き、野菜の即売を実施するなど、都市部の人たちにもPRしています。

ポイント

ココが
コツ！

- ・宍粟市が「発酵のふるさと」と言われていることから、江戸時代から造られていた日本酒「三笑」の約40年ぶりの復活・神社での蔵出し、女性蔵人による日本酒バーの開業、ライトアップした酒蔵通りで地元の食や地酒を楽しめる酒蔵まつりの開催など、地域の協力を得ながら、歴史ある資源を組み合わせ、まちの魅力を向上させています。
- ・「よいまちハイカラフェスタ」では、はかまなどの着物をレンタルしてまち歩きをしてもらうことで、参加者に楽しみながら歴史的なまちなみの雰囲気味わってもらおうとともに、SNSによる外部への情報発信につなげています。

こんな
苦労が

- ・町家の再生に取り組み始めた当初は、空き家所有者の理解がなかなか得られず苦労しましたが、地道な交渉・開業の実績・イベント開催など様々な取組を進めることで、町家再生の話が前に進むようになりました。また、地域の事業者や住民による開業への後押しや継続的な支援も行き、開業希望者の発掘にも取り組んでいます。



活動拠点「よいまちや」

この事例をもっと知りたい場合

よいまちプロジェクト
(山崎中心市街地活性化委員会)



TEL 0790-62-2365 (宍粟市商工会内)

HP <https://www.re-yamasaki.com/>

SNS  @yoimachi_project

 @REyamasaki